

令和5年度  
発生予察情報

## 発生予報第5号（概要版）

令和5年6月26日発行  
宮城県病害虫防除所  
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
水稲	葉いもち	発生時期: 平年並 発生量: 平年並	発生時期: 発生開始期
	コバネイナゴ	発生時期: 平年並 発生量: やや少	発生時期: 本田侵入盛期
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	発生時期: 平年並 発生量: やや少	発生時期: 第1世代成虫発生盛期

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋きゅうり	うどんこ病	発生量: 平年並	
	べと病	発生量: 平年並	
	褐斑病	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋トマト	うどんこ病	発生量: 平年並	
	疫病	発生量: 平年並	
	灰色かび病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	
	コナジラミ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋なす	うどんこ病	発生量: 平年並	
	すすかび病	発生量: 平年並	
	灰色かび病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	
	コナジラミ類	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: やや多	
	ハモグリバエ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
いちご	うどんこ病	発生量: 平年並	
	炭疽病	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
きく(露地)	白さび病	発生量: やや少	
	アザミウマ類	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: やや多	
	カスミカメムシ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
作物共通	オオタバコガ	発生量: 平年並	
	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並	
	シロイチモジヨトウ	発生量: 平年並	

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第6号の発行日は7月10日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所

トップページ



メルマガ

登録フォーム

## ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月 15~20 日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台6月 22 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期 (発生開始期※)	発生量
葉いもち	平年並 (7月第1半旬:7/1~7/5)	平年並

※発生開始期:予防的防除を行わなかった水田において病斑が確認され始める時期

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、残苗の放置筆率及び発病筆率はともに平年並であった(±/±)。また、巡回調査における本田での初発確認は6月 15 日で平年より早かった。( - / )
- (2)平均気温が 19~25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / ±)、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。( ± / ±)

病害虫名	発生時期 (本田侵入盛期)	発生量
コバネイナゴ	平年並 (7月第2半旬:7/6~7/10)	やや少

#### 予報の根拠

- (1)6月第4半旬の定点調査(雑草地)の結果、幼虫は若齢幼虫が主体であった。( ± / )
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( - / )
- (3)巡回調査の結果、畦畔際の発生量は平年(過去7か年の平均値)より少なかった。( / -)
- (4)前年の発生量が平年並であったことから、越冬密度は平年並と推測される。( / ±)

病害虫名	発生時期 (第1世代成虫発生盛期)	発生量
フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並 (6月第5半旬:6/21~6/25)	やや少

#### 予報の根拠

- (1)有効積算温度シミュレーション及び定点におけるフェロモントラップ調査の結果、第1世代成虫発生盛期は平年並(6月第5半旬)と推測される。( ± / )
- (2)前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、越冬密度は平年よりやや低いと推測される。( / -)
- (3)本虫に対して効果の高いジアミド系の育苗箱施用剤が普及している。( / -)
- (4)幼虫の発生には曇雨天が好適であり、向こう1か月の降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。( / ±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。  
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

### (2) 葉いもち

- ・巡回調査において、補植用苗でいもち病の発生が確認された。補植用苗は本田でのいもち病の発生源となるため、速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。
- ・本田においてもいもち病の発生が確認された。育苗箱施用剤等による予防防除を実施した場合でも、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除する。
- ・BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果では、6月第3～4半旬に県広域で好適条件及び準好適条件が出現しているため、今後の発生に注意する。最新の推定結果については、以下の URL を参照する。  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

### (3) コバネイナゴ

- ・齢が進んでから薬剤散布を行うと防除効果が低下するので、中齢幼虫(体長 1.5cm 程度)が見られる本田侵入盛期までに防除を行う。

### (4) フタオビコヤガ(イネアオムシ)

- ・防除適期は、第1世代成虫発生盛期(平年:6月第5半旬)の7～10 日後の第2世代幼虫発生盛期であり、本年は7月第1半旬頃と推測される。
- ・本虫における被害は出穂の遅れや登熟歩合の低下などを引き起こすことがあるため、必要に応じて防除を実施する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月 31 日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## －7月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:6月15～19日

天候予報:仙台管区气象台6月22日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病は確認されなかった。( /－)
- (2)15～28℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。( /±)
- (2)20～24℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /－～±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。( /±)
- (2)30℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び1葉当たりの寄生頭数は平年並であった。( /±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( /+)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1)共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

## (2)うどんこ病、べと病、褐斑病

- ・肥料切れは発病を助長するため、適切に肥培管理を行う。
- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。
- ・薬剤防除は、罹病葉・果を取り除き、ほ場内の伝染源を減らしてから実施する。
- ・株の 15 葉目以下の葉に薬剤散布を継続することで、うどんこ病、べと病及び褐斑病に対し全葉散布と同等の防除効果が得られると報告されている。詳細は以下の普及に移す技術を参照のこと。

「普及に移す技術」第 96 号(令和2年発行) 指導活用技術 17 「キュウリの中位葉及び下位葉重点防除による地上部病害の抑制」 <https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/847338.pdf>

## (3)べと病、褐斑病

- ・高温多湿で発病が助長されるため、過繁茂とならないよう老化した下葉など不要な葉を取り除き、風通しを良くする。

## (4)アブラムシ類

- ・株に定着すると急激に増加し、防除が困難になるとともに、ウイルスを媒介することがあるので、有翅虫やアブラムシの群生が見られた場合には速やかに防除を行う。
- ・ウイルス病に罹病している株は伝染源になるので、取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- ・ほ場外からの飛来を防止するため、ほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネットを設置する。

# 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム



## －7月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:6月15～20日

天候予報:仙台管区气象台6月22日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ±)
- (2)向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
疫病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ±)
- (2)20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / -)、降水量は平年並と予報されている。( / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。( / ±)
- (2)15～23℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / -)、降水量は平年並と予報されている。( / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。( / ±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / +)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	－	やや多



## 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。( / ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / +)

### ※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや、病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に脇芽取りや誘引等の栽培管理を行う。
- 梅雨時期は施設内の湿度が高いため、ほ場全体をよく見まわり、病害等の早期発見に努める。病害虫が多発してから防除は困難になるため、初期防除の徹底を心がける。
- ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、施設外へ搬出し適切に処分する。
- 訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- オオタバコガについては「作物共通害虫」の発生予報を参考にする。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

### (2) うどんこ病

- 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤も含めてFRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、気門封鎖剤は薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認してから、植物体全体にムラなく散布する。

※「普及に移す技術」第94号(令和元年発行)参考資料14「トマトうどんこ病に対する気門封鎖型薬剤の防除効果」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735201.pdf>

### (3) 疫病

- 20℃前後の多湿条件下で発生が助長されることから、換気を適切に行う。
- 窒素過多、採光不良、灌水過多などによって茎葉が軟弱となると発生が助長されるため、適切な栽培管理を行う。
- 一度発生すると急激に蔓延するため、発生初期に防除を徹底する。

### (4) 灰色かび病

- 15～23℃の多湿条件下で発生が助長されることから、換気を適切に行うとともに、適切に脇芽取りや誘引を行い、風通りの良い草姿を維持する。
- 咲き終わった花卉が第二次伝染源になるため、手で取り除くかブロアで吹き飛ばす。

## (5)アザミウマ類

・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果があるIRACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

※「普及に移す技術」第93号(平成30年発行)参考資料9「アザミウマ類の各種薬剤に対する感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/685975.pdf>

・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。

## (6)アブラムシ類

・多発すると作物への吸汁や排泄物にすす病が発生して被害が出るので、適切に防除を行う。

## (7)コナジラミ類

・コナジラミ類は多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生すること、タバココナジラミは低密度でもウイルスを媒介するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。

・主に葉裏にいるので、薬剤は葉の裏にもよくかかるように散布する。

・タバココナジラミのバイオタイプQは薬剤感受性が低い事例が他県で報告されていることから、気門封鎖剤や天敵製剤による防除もあわせて行う。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## －7月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:6月15～20日

天候予報:仙台管区气象台6月22日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、一部ほ場では発病株率が多いほ場も認められたが、発生地点率および発病株率は平年並であった。( / ± )
- (2) 向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ± )
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ± )
- (2) 20～25℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / - )、降水量は平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生葉率は平年並であった。( / ± )
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / + )

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	やや多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ± )
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / + )

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	－	やや多

## 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。( / ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	やや多

## 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハモグリバエ類	—	やや多

## 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / +)

### ※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (−):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (−):少なくなる要因 (空欄):該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。
- 梅雨時期は施設内の湿度が高いので、ほ場全体をよく見まわり、病害等の早期発見に努める。病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- 天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- オオタバコガについては「作物共通害虫」の発生予報を参考にする。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

### (2) うどんこ病

- 多発時は散布間隔を短くし、4～5日間隔でFRACコードが異なる薬剤をローテーション散布する。

### (3) すすかび病・灰色かび病

- 発病した果実や茎葉は見つけ次第摘除し、施設外へ搬出し適切に処分する。

#### (4)アザミウマ類

・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果がある IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

※「普及に移す技術」第 93 号(平成 30 年発行)参考資料9「アザミウマ類の各種薬剤に対する感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/685975.pdf>

・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。

#### (5)アブラムシ類

・多発すると作物への吸汁や排泄物にすす病が発生して被害が出るので、適切に防除を行う。

#### (6)コナジラミ類

・主に葉裏にいたので、薬剤は葉の裏にもよくかかるように散布する。

#### (7)ハダニ類

・薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、気門封鎖剤も含めて IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が生育していた場所を観察し、虫の有無や効果を確認する。効果が見られなかった場合は IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

#### (8)ハモグリバエ類

・葉の吸汁痕や産卵痕、幼虫の食害痕を観察し、発生初期に防除する。

### 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム



## ー8月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月15～20日(親株)

天候予報:仙台管区气象台6月22日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。( /±)
- (2)向こう1か月の平均気温は高いと予報されている( /±)。

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( /±)  
(例年、この時期の調査では発生は確認されていない。)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量は平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率は平年並であったが、発生地点率は高かった。( /±～+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( /+)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1)共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。
- 本ぼにおける初期病害虫の発生の多くは育苗からの持ち込みが原因であるので、親株・育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- ・IPM 体系による防除は下記を参照する。  
 ※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版 (PDF:6、731KB)  
[https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res\\_center/ichigo-ipm.html](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html)
- ・定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。  
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

## (2)うどんこ病

- ・こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。

## (3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り適切に処分する。
  - ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くなならないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
  - ・発病株の残渣が土壌中に残り伝染源となるため、使用資材は農業資材用の消毒剤で洗浄するか、更新する。
  - ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしせず開閉し、イチゴに当てる日照量を増やすなどして健全育苗に努める。
  - ・予防散布の徹底が重要であるので、薬剤抵抗性の発達を防ぐため FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤 (FRAC:11) の耐性菌が確認されているので留意する。
- ※「普及に移す技術」第 89 号 (平成 26 年発行) 参考資料「QoI 剤耐性イチゴ炭疽病の発生と有効な防除薬剤」  
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/256498.pdf>

## (4)ハダニ類

- ・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。
- ・定植前の高濃度炭酸ガス施用は効果が高いが、苗へのハダニの寄生数が多いと高濃度炭酸ガス施用の効果が不十分になるおそれがあるので、親株～育苗期も防除に努める。
- ・気門封鎖剤は物理的に作用する薬剤であり、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布する。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。  
 ※「普及に移す技術」第 91 号 (平成 28 年発行) 参考資料 21「イチゴのナミハダニに対する殺ダニ剤の効果」  
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20131/91sankoushiryoku21.pdf>

## (5)コナジラミ類

- ・主に葉裏にいるので、薬剤は葉の裏にもよくかかるように散布する。



## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クホルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月15～19日

天候予報:仙台管区气象台6月22日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
白さび病	ー	やや少

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年よりやや低かった。( /ー)
- (2)20℃以下で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害葉率は平年より低かった。( /ー)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( /ー)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年並であった。( /±～+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
カスミカメムシ類	ー	やや多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、被害茎率は平年よりやや高かった。( /+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

## ※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±): 平年並になる要因 (-): 早くなる要因 (空欄): 該当せず  
発生量・・・(+): 多くなる要因 (±): 平年並になる要因 (-): 少くなる要因 (空欄): 該当せず

## 2 防除のポイント

### (1) 共通事項

- ・薬剤散布の予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に前倒しして防除を実施する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・ウイルス病はアザミウマ類やアブラムシ類によって虫媒伝染する。伝染源となる罹病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。  
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

### (2) 白さび病

- ・罹病葉や残渣が原因となって発生が拡大するので、罹病した部位は早めに摘み取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・葉裏の初期病斑を見逃さないようよく観察し、薬剤は葉裏にも丁寧に散布する。
- ・窒素過多で発病が助長されるため、窒素質肥料の多用を避け、適切な肥培管理に努める。

### (3) アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、発生源となるので除草に努める。

### (4) カスミカメムシ類

- ・カスミカメムシ類の被害が広域で確認されている。ほ場をよく観察し、被害状況に応じて適時防除を行う。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クホルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

### 《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月15～20日

天候予報:仙台管区气象台6月22日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1)6月第4半旬までのフェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。( / ±)
- (2)巡回調査の結果、夏秋トマト、夏秋なすでは発生は確認されなかったが、きく(露地)で被害が確認された。( / ±)
- (3)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並と予報されている。( / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1)6月第4半旬までのフェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。( / ±)
- (2)巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。( / ±)
- (3)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並と予報されている。( / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。( / ±)
- (2)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並と予報されている。( / ±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (−):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (−):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1)共通事項

- ・幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するので、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。
- ・寄主範囲が広く、雑草での発生も多いため、ほ場周辺の除草を実施する。
- ・施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/miyagi>

## (2)オオタバコガ

- ・宮城県は平年では7月中下旬に第1世代、8月中下旬に第2世代の成虫が飛来するとされているので、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると農薬がかかりにくく防除が困難になるため、農作物に食入する前に防除を行う。
- ・トマトやナス等果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

## (3)ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ

- ・葉裏に毛でおおわれた卵塊で産卵し、集団で葉を食害するので、見つけ次第除去する。
- ・初発の防除後にも被害が見られる場合は、成虫の飛来が多い状況であるため、被害葉の除去とともに、7～10日間隔で薬剤をローテーション散布し、若齢幼虫を防除する。

### 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム